

# みづけよら 堀割川

1

もっと  
素敵な

2

3

## 近代土木遺産「堀割川運河」

●…水辺空間の広がり、人とのかわり、時代の記憶。

港町ヨコハマの運河の風情を今に伝える、磯子の誇り…。 **水と緑と歴史の軸**

明治初期に開削され震災復興で改築された堀割川。舟でにぎわう「働く川」であり川泳ぎをしたり夕涼みをした「暮らしの川」であった。港町横浜らしい運河のある風景も今は姿を消し、往時の姿をとどめる運河はこの堀割川だけになってしまった。磯子区・南区、そして横浜のまちの貴重な歴史的運河空間として堀割川をまちづくりに活かしていきたい。

河口域の八幡橋の親柱と橋脚。

い い iki iki

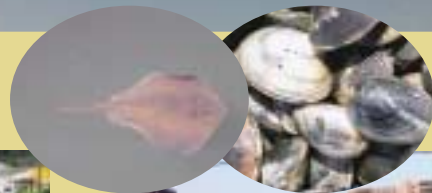
堀割川にはエイやアサリの姿も。

のびのび nobi nobi

町並みをゆたかにしている風情のある石積護岸。

堀割川は、人々の温もりでいっぱいです。

八幡橋上流。



# 発進

Machi Zukuri Plan

横浜に残る長大な  
《石積運河空間》を

水と緑と歴史の軸  
として  
活かしていこう。

### ●歴史的な土木遺構を大事にする

石積や物揚場、親柱などの土木遺構を保全する方針と保全のための具体的手だてが今こそ必要です。往時の姿をとどめている運河は今や稀少な存在なのですから。

### ●運河の歴史的景観を活かす

水面が近く開放感いっぱいの堀割川。市街地にまで磯の気分を運んでいる堀割川には磯子ならではの風情があります。地域の暮らしと結びつけた運河の歴史的価値を活かし、市民の力で運河を活性化させ、魅力的な空間にしていきたいと思います。

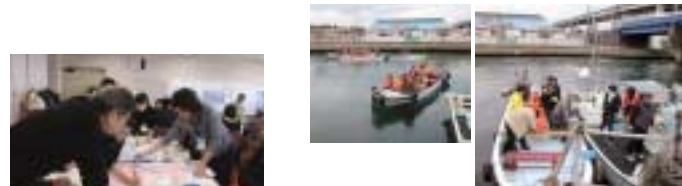
# 堀割川を活かしたまちづくり

## 01 Step up Program '05年に2回のワークショップが公募による市民の参加で実施されました。堀割川魅力向上! ワークショップ



ワークショップで、たくさんの魅力や課題を模造紙に整理しました。今後の行動計画の指針になります。

堀割川は「運河なんだ」ということが「船の上からの視線」で体感できました。



第1回は昔の体験や魅力を語り合い、地図にコメントを書き込みました。第2回は船から堀割川を見学しました。「たくさんの魅力に気づき、堀割川を見る目が変わった」と、大いに盛り上がりました。

### ワークショップででた3つのキーワード

参加者の堀割川に対するいろいろな思いを3つのキーワードに表すことができました。

#### ●歴史的魅力/土木遺産

震災復興の風情のある石積護岸  
横浜で唯一残っている物揚場  
階段/美しい親柱のデザイン  
繫船環/下水吐き口のデザイン  
ヘルムドック跡/八幡神社

#### ●空間・風景の魅力

市街地の中の広々とした空間  
広々とした水面/水面が近い  
風の道/水の道/潮の香り  
橋からの風景/舟の浮かぶ風景  
桜や柳の並木/崖地の緑

#### ●生活空間としての魅力

水面に降りられる階段がある  
ハゼ釣りの名所/海の魚  
運河を見るとほっとする  
磯子に帰ってきたと実感する  
海の近さを感じさせる

## 02 Step up Program '05年9月に川に親しむイベントも開催されました。イベント 最初の一步 堀割川の日2005

(台風の影響で一部の催しだけを実施、残念)

その1・八幡橋「川の駅」 運河の魅力を実体験、災害時も活躍するボートやカヌーで運河を往復する、ちょっとアドベンチャーな企画でした。

体験イベント その2・4橋めぐりスタンプラリー 堀割川にかかる4つの橋をポイントにスタンプを集めながら地区センターのゴールを目指せ。

今後も継続 その3・堀割川魅力発見パネル展 堀割川の歴史や成り立ち、その価値を再認識。今後のまちづくりの夢がふくらみました。

その4・模擬店&フリーマーケット プチお祭りにぎわいで、参加者の交流の場にもなりました。



## 03 Step up Program 地域にとってのかけがえない魅力資源「堀割川」を、まちづくりの背骨にして取組みを継続、発展させていきましょう。今後に向かって

活動を重ねるごとに、堀割川を生活圏にしている人たちの関心は高まりを見せ、「魅力あるまちづくり」はすこしずつ動き始めようとしています。

### 具体化に向けて

- 堀割川沿いの遊歩道の検討
  - 既存施設を活かしたスポット整備の検討
- など、「魅力あるまちづくり」を、すすめるための検討をしていきます。

### pin spot

#### \*堀割川の改善すべき課題

- 両側を車道に挟まれ川沿いを歩けない
- 沈船や不法係留している船がある
- 土木遺構が老朽化している
- 緑が少ない

#### \*堀割川の活性化アイデア

- 堀割川の価値を知ってもらうことが重要
- できることから水面利用イベントを  
ハゼ釣り大会/水上レストラン/灯籠流し
- 子供たちを集めて堀割川・川の楽校
- 1日歩行者天国

\*堀割川魅力向上ワークショップより

発行：横浜市磯子区役所区政推進課  
(問い合わせ:企画調整係 TEL.: 045-750-2331)

協力：横浜市環境創造局環境政策課

制作・デザイン：(株)吉村伸一流域計画室 / 金田正(デザイン) 印刷：有限会社ソノ

資料協力：横浜市まちづくり調整局都市計画課(地形図) / 横浜開港資料館(写真絵はがき)

横浜市広報印刷物登録 第●●●号 種別・分類●●●●

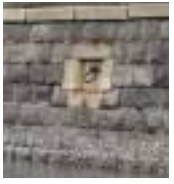
発行：平成18年●月

# 1 堀割川の歴史：震災復興時〜現在

その2

(大正・昭和)

▼河岸石積みの「繫船環」



▼ほぼ完全な形で残っている天神橋上流の荷揚場。



▼風情のある石積みの護岸。



運河を行く運航船のナビゲートに橋の表示は重要です……



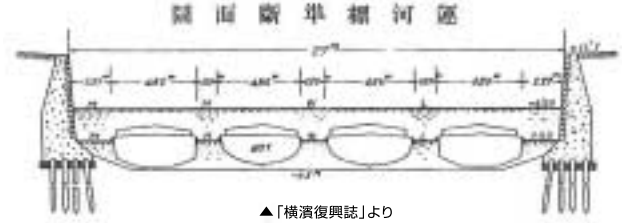
## 今も残る近代土木遺産

大正12年(1923)9月1日の関東大震災で堀割川をはじめ横浜の運河は壊滅的な被害を受けました。復興計画では、貿易港や工業都市としての発展という視点から、水陸を結ぶ運河の復興を重視しました。大岡川は当時の最新技術である鉄筋コンクリートの直立護岸で復旧されましたが、帷子川や中村川、堀割川は石積の護岸で復旧されました。石積の護岸と言ってもそれまでの空石積ではなく、分厚いコンクリート製の重力式擁壁です。基礎にはたくさんの松杭が打ち込まれています。橋も木橋から鉄の橋に架け替えられ、橋ごとにデザインの異なる親柱がつくられました。橋桁に橋の名前が書かれていますが、船を操る人が位置を知るための重要な目印になります。帷子川や大岡川の橋にも書かれています。

船から荷物を積みおろしするための荷揚場や階段が造られ、船をつなぐ繫船環も規則的に配置されています。ほとんどの荷揚場は埋められてしまいましたが、天神橋上流や磯子橋下流には今も荷揚場が残っています。八幡橋下流の階段は今も健在です。

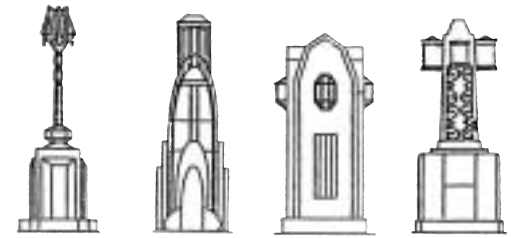
現在の堀割川は、震災復興工事による当時の姿をほぼそのままの形で今に伝えていきます。全川にわたって当時の姿をとどめている運河はこの堀割川だけです。

▼復興時の「堀割川改修」に使われた図面です。



▲「横濱復興誌」より

▼復興時に造られた堀割川に架る橋の「親柱」のデザイン図面も残っています。



天神橋 八幡橋 中村橋 根岸橋

▲「横濱復興誌」より

親柱のデザインの詳細から当時の優れた感性と技術が感じられます……



▲天神橋の「橋名板」



▲天神橋の「親柱」、台座が残っています。

▼八幡橋の「橋歴板」



▼八幡橋の「親柱」



●八幡橋下流の昇降階段。

### 堀割川(二級河川大岡川水系)の概要

- 八幡橋上流区間：延長約2100m、川幅約27m
- 八幡橋下流区間：延長約600m、川幅約30m~60m
- 架橋：(上流より)中村橋/天神橋/根岸橋/坂下橋/磯子橋/八幡橋

